

献呈の辞

生田キャンパスの木々の芽が少しずつ色づき始め、春の息吹きを感じさせる季節となりました。今年度、専修大学は長い歴史の中でも稀有な規模の改革の只中にありました。改革の真の開花、結実はまだ世人の目には顕にはなっておりませんが、教員の大規模な学部間移籍、新学部・新学科の開設、神田キャンパスの最終的な設計の完成、生田新2・3号館の竣工など、次代に向けた着実な歩みを見ることができます。そのような中、平成29年度も終わりを迎え、退職される先生方をお送りする時期となりました。専修大学人間科学部社会学科では、平成30年3月末日をもって宇都榮子教授が定年を迎えられご退職されます。

宇都教授は昭和22年（1947年）に鹿児島県にお生まれになり、昭和41年（1966年）に鹿児島県立出水高等学校を卒業後、同年4月、日本女子大学文学部社会福祉学科に入学されました。昭和45年（1970年）、同学科を卒業された後、同年4月から日本女子大学専任助手（文学部社会福祉学科）に就任されました。昭和52年（1977年）に専修大学文学部人文学科社会学コースの専任講師として着任され、昭和56年（1981年）には助教授に、また昭和63年（1988年）には教授に昇格されました。平成22年（2010年）には新設なった人間科学部社会学科に移籍され本学部教授となられ、今年度、定年を迎えられます。

宇都教授は、講師4年、助教授7年、教授30年間、合計41年の長きに渡って本学に在職されました。その間、文学部人文学科長（2年間）、平成22年（2010年）からは人間科学部の初代学部長、平成24年からは第二期の学部長の重職を担われたほか、学校法人専修大学評議員、障害学生支援推進委員会委員長など数多くの役職を歴任され、本学の発展に寄与されました。

宇都教授のご専門領域は、福祉の社会学、日本の社会福祉史研究、とくに明治時代以降の孤児院（上毛孤児院）、育児院（福田会育児院）に関するご研究に力を注いでこられました。これら社会福祉学の研究領域に関連して、東京社会福祉史研究会副代表や同研究会編集委員会委員長などの学会活動の他、社会福祉法人川崎愛児園や福田会の評議委員など幅広い社会活動をされております。また、社会福祉に関わる広範な領域において多数のご業績を残されています。宇都教授には、本学の社会学科をわが国有数の社会学科に発展させていただき、人間科学部の礎を築いていただきました。

宇都教授に対する感謝と惜別の気持ちを込めて献呈の辞といたします。

平成30年3月

専修大学人間科学部長 山上精次